

183 苟可營々止 ●●○○●●
184 胡爲脛々全 ○○○●●○

※ 脚韻は下平声「先」韻。韻字は「填、田、煎、全」である。

訓読

177 国家の恩未だ報いざるに

178 溝壑先ず填まらんことを恐る

179 潘岳宅を忘るるに非ず

180 張衡 豈 田を廢せむや

181 風に摧けて木の秀づるに同じ

182 燈滅えて膏の煎らるるに異なり

183 苟しくも營々として止まるべし

184 胡爲れぞ脛々として全からむ

口語訳

177 〈それが今となつては〉国家(君)の恩に報い得ないまま

178 この鎮西の太宰府で左遷されたまま死んでしまうのではないかと恐れる。

179 晋の潘岳は家(故郷)を忘れたのではなく、宦官や小人に誣いられ閑居を余儀なくされて、不遇な目にあ

つた(と聞くし)。

180 漢の張衡は、官を辞めて野に下り、農耕生活を余儀なくされた(と書には書かれている)。